

令和4年度「先進的省エネルギー投資促進支援事業費補助金」
「先進事業」における『先進設備・システム』公開用概要書

製造会社情報（コンソーシアムの場合は、幹事社）

設備/システム名	ECS (Endless Charging System) 電気炉用原料スクラップ連続装入システム
型番	—
会社名	ダニエリ エンジニアリング ジャパン株式会社
本社所在地	横浜市西区みなとみらい2-2-1
会社WEBページURL	http://www.danieli.jp/jp/
製品紹介ページURL	https://www.danieli.com/en/news-media/tech-advances/fastarc-zero_98_447.htm

製品についてのお問い合わせ先

連絡先	ダニエリ エンジニアリング ジャパン株式会社 代表電話番号：045-651-7077 営業部長：奥山 強 Eメール：t.okuyama@danieli.com
-----	--

登録設備情報

導入可能な主な業種・分野	E. 製造業		
導入対象となる分野・プロセス	電気炉の原料スクラップ溶解工程		
導入事例の省エネ量（原油換算：kl）	7,183	kl/年	
工場・事業場当たりの想定省エネ率	—	%	
設備・システム当たりの想定省エネ率	13.2	%	
導入事例における費用対効果（年間）	68.4	kl/千万円	
1台又は1式当たりの想定導入価格（参考）	1,050,000,000	円	
保守・メンテナンス等の年間ランニング費用	20,000,000	円/年	

製品・システムの概要

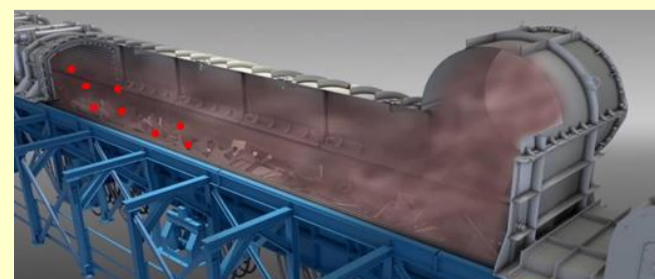
電気炉による製鉄業に於いて最大のエネルギーを消費する製鋼用電気炉の省エネルギー化は重要な課題である。
従来型電気炉にダニエリの「ECS (Endless Charging System) :原料スクラップ連続装入システム」を設置する事により、原料スクラップはコンベアで連続的に炉内に装入され、溶解の工程で炉内から発生する通常は廃熱である高温排ガスを装入過程で原料スクラップに当てる事により予熱し、大量のエネルギーを回収、溶解時のエネルギー消費を抑える事が可能となる。
スクラップの溶解工程に於いて発生する排熱を効率よく再利用し、電力・天然ガス等の消費エネルギーの低減すると共に操業を最適化する事により生産コストの大幅引き下げが実現可能である。

- バケットによる装入不要（炉蓋開閉無し）
- 通電停止時間最小化
- エネルギー消費量60kWh低減（排熱回収による）
- 環境に優しい技術
- 集塵装置の容量低減
- 450トンまでのAC炉 DC炉に対応
- Q-melt による最適制御



先進性についての説明

ECSにより炉内から発生する高温排ガスで原料スクラップ400℃まで加熱される。これにより大量の熱エネルギーを回収し溶解時のエネルギー消費を抑え、以下の省エネ効果を得る事が可能。
1. スクラップを予熱し、熱含量を上げ溶解エネルギーを60kWh/tの削減が可能。
2. 溶解に必要なアーク放電を発生させる高価な黒鉛電極の損耗料を大幅に低減。
3. その他低コスト化技術
既存の従来型電気炉にECSを追設可能であり、既存設備の大部分の流用が可能。
これにより初期導入コストを大幅に抑えることが可能である。



製品・システムの概要・イメージ図

< ECS付き電気炉の生産工程 >

装入コンベア
クレーン等によりスクラップヤードに貯留されているスクラップをコンベア上に装入し、予熱コンベアに搬送される。スクラップはダイナミックシールを通過して予熱コンベアに送られる。

ダイナミックシール
予熱コンベア内から装入コンベアへスクラップを搬送する際の高温排ガス流出を防止。

予熱コンベア
電気炉から発生した高温の排ガスをスクラップに当て予熱する。

コネクティングカー
溶鋼出鋼の際、電気炉の炉体傾動時に予熱コンベアと炉体が干渉を防ぐために炉体に接触しているコンベア先端部を退避させる。

電気炉
予熱コンベアより連続的に挿入されるスクラップを炉内でアーク放電によって発生する高熱により溶解する。（既設設備流用可能）

排ガス処理設備
予熱コンベアでスクラップを予熱した後の排ガス集塵装置に送る間に急冷する。

1. 予熱コンベア 3. ダイナミックシー 4. 装入コンベア 5. コネクティングカー B. 電気炉

導入事例の概要・イメージ図

業種・分野	電炉鉄鋼業	対象設備・プロセス	製鋼用電気炉
<p><概要> 電気炉による製鉄業に於いて、最大のエネルギーを消費する電気炉の省エネ化は最重要課題。ダニエリの「ECSスクラップ連続装入システム」は電気炉のスクラップの溶解工程で発生する排熱を再利用し、電気・天然ガス等の消費エネルギーの低減と共に操業最適化により生産コストの大幅引き下げを実現する。</p> <p><省エネの原理> ECS付きの電気炉は従来の通常型電気炉と異なり、炉の側面から炉蓋を閉じた状態で原料スクラップを連続的かつ緩やかに装入する事により次の効果が得られる。</p> <p>1. 予熱効果 炉内から発生する高温排ガスを連続装入の過程で常温の原料スクラップに当てる事により加熱して大量のエネルギーを回収し溶解時のエネルギー消費を抑える。</p> <p>2. 安定操業による効果 炉内を非常に安定した運転状態（フラットバス）に保つ。これにより</p> <p>1) 溶解に必要なアーク放電を発生させる高価な黒鉛電極の損耗料を大幅に低減。 2) ダストやスラグの発生を低減させ、歩留まり向上が可能。 3) 排ガスの低減と電圧変動の安定化により補助装置/クレーン/FTP/SVCなど付帯設備の運用コストを抑える事が可能。 4) 炉蓋を開閉せずにスクラップを連続装入する為、電源オフ時間を最小限に抑え、開閉時のエネルギー損失を抑える事が可能。</p> <p>結果、通常型電気炉と比較し溶鋼生産コストは大幅に節約でき、コスト競争力を高める事が可能。</p> <p><導入方法> 既存の通常型電気炉設備のほぼ全てを流用し、ECS特有の付帯設備（予熱コンベア装置や排ガス処理装置等）を追加設置する事で対応可能。導入に際し設置スペースやレイアウトの検討が必要となる。詳細は添付資料1（公開可）を参照願う。</p>			